

令和 2 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する学校
- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人一人の希望を叶える進路を実現する
 - 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う
 - 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を進める
 - 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする

2 中期的目標

- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現
 - (1) 希望の進路の実現に向け、教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する。
 - ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行い、生徒の学力の向上を図る。
 - イ 授業における ICT の効果的な活用を進め、視覚化、情報活用による教育効果をさらに高める。
生徒向け学校教育自己診断における授業満足度 (H29:77.1%、H30:78.9%、R1:79.9%)を、令和4年度には、83%にする。
 - (2) 3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、希望の進路を実現させる。
 - ア 1年次から進路に合わせた授業や進学講習を実施し、早期の目標設定につなげる工夫をする。
 - イ 進路決定まで、学年進行に合わせて、多様な希望に応える個別の指導を幅広く展開する。
 - ウ 大学等との連携や補習、自習室活用の拡充により、難関大学の進学実績を向上させる。
国公立・難関私立大学の合格者数 (H29:17人、H30:14人、R1:15人)を、令和4年度には25人に、それに準じる有名私立大学合格者数 (H29:38人、H30:33人、R1:42人)を令和4年度には50人に近づける。
- 2 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う
 - (1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む。
 - ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する。
 - イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む。
 - ウ 「部活動」の活性化により、学校生活をより充実したものにし、その活動を通して、公共心を育む。
 - エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、年間を通して、生徒・教職員の負担軽減を図る。
生徒向け学校教育自己診断における生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、令和元年度における満足度「文化祭・体育祭」89.3%、「生徒会活動」94.3%、「部活動」86.8%を、令和4年度には、すべての項目が90%を超える。
- 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を進める
 - (1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムについて理解を深める。
 - ア 藤井寺支援学校との交流活動を充実させ、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムについて理解し、活動に生かす。
 - (2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充する。「地域とともにある、進学したい学校 No. 1」をより確かなものとする。
 - ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小学校や他の教育機関との連携活動）の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高（ふじたか）」を発展させる。
 - イ PTA、同窓会の協力の下、海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ交流も充実させる。
 - (3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する。
 - ア HP（校長ブログ）、藤高メルマガのさらなる充実を図り、情報発信を強化する。
 - イ 「体験入学」、「学校説明会」について、生徒が主体となった運営を継続し、「藤高（ふじたか）」の良さを、さらにわかりやすく伝えていく。
- 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる
 - (1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る。
 - ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、一人一人の生徒支援の充実を図る。
 - イ 大多数の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る。
 - (2) 「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の将来展望を検討する。
 - ア 「総合学習推進委員会」、「初任期育成チーム：ひよたま」を中心に、生徒数減の将来に向けた特色ある取組みを具体的に検討していく。
 - (3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る。
 - ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する。
 - (4) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するなどし、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現	<p>(1) 希望の進路の実現に向けた、教員の指導力の向上、生徒が主体的に授業に取り組む工夫 ア 「主体的に学ぶ力」の向上、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善 イ 授業における効果的なICT活用</p> <p>(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実 ア 1年次からの少人数授業・進学講習の充実 イ 多様な進路への対応 ウ 自習室活用の拡充</p>	<p>(1) ア 「主体的に学ぶ力」の育成および事前学習となる「予習・復習」のために、スタディサプリ活用の拡大と充実を図るとともに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、各学期ごとに授業改善委員会を開催し、実践内容や方法を検討し、その効果を検証していく。 イ プロジェクトやPCを効果的に活用した授業を展開することで、学力向上につなげる。</p> <p>(2) ア 1年次から「総合探究」の時間等での進路意識の定着、ICT機器の活用、地域との関係をはかり、1年次後半からの進学に向けた講習の充実を図ることで、学習への意欲を向上させる。 イ 多様な進路に対応するため、情報収集、伝達を充実し、幅広い個別の指導を展開する。 ウ 日々の補習と集中講習（「夢へのトライアル」）自習室の活用を促進する。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(令和元年度79.9%)を80%以上にする。 イ 同自己診断による「教材やコンピュータ、プロジェクトなどで工夫された授業がある。」(令和元年度88.8%)を維持し、90%に近づける。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」(令和元年度78.9%)を80%以上にする。 イ 同自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる。」(令和元年度83.3%)を維持し、85%に近づける。 ウ 自習室の活用を促進することで、国公立・難関私立大学の合格者数を、令和元年度18人を20人に、それに準じる有名私立大学合格者数、令和元年度42人を、45人に近づける。</p>	
2 学校行事や部活動を通して、創造性を育成するとともに、公共心を養う	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力の育成 ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織を企画・運営する生徒の力の育成、及び生徒リーダーの養成 イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」の育成 ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成 エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」「学校休業日」の完全実施、部活動の効率化</p>	<p>(1) ア 体育的行事において、生徒会部と3学年団が連携し、生徒のリーダー集団を育成する。そのリーダー集団に、企画から1、2年を巻き込んだ組織運営に取り組ませる。 イ 文化的行事において、生徒会を中心にクラス単位での企画・運営の中で、クラスの協力体制や責任感の大切さを理解させる。 ウ 新入生に向けて、入部の促進を図り、加入率の向上を図る。また、各活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく。 エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、部活動の効率化を図っていく。</p>	<p>(1) アとイ 生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい。」(令和元年度89.3%)を維持し90%に近づける。 また、同自己診断による「新入生歓迎会や学校説明会、各行事において生徒会はよく活動している。」(令和元年度94.3%)を維持する。 ウ 新入生の部活動加入率(令和元年度74%)80%をめざす。 同自己診断による「本校は、部活動が盛んである。」(令和元年度86.8%)を維持し、90%に近づける。 エ クラブごとの年間活動計画をHPなどで周知し、実際の活動とチェックすることにより、「ノークラブデー」の完全実施をする。</p>	

<p>3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域」とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進める</p>	<p>(1) 支援学校との連携を通して、インクルーシブ教育システムの理解と実践 ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解と実践 (2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動の充実 「地域とともにある、進学したい学校 No. 1」 ア 地域活動の拡充、地域と密着した「地域とともにある学校」の継続 イ 海外研修の継続・充実 (3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動の充実 ア HP（校長ブログ）藤高メルマガのさらなる充実 イ 生徒が主体の「体験入学」、「学校説明会」のさらなる充実</p>	<p>(1) ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させ、その広報活動を行う。同時に、インクルーシブ教育システムの構築について理解を深め、実践に生かす。また、年間を通じて「人権教育」を推進し、理解を深める。 (2) ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図る。特に、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を行う。 イ ニュージーランドへの海外研修の継続と内容の充実を図るとともに、現地交流高校から日本への短期留学や本校での学校交流やホームステイ受け入れを実現する。 (3) ア HPの改善を進め、「求められる情報」のタイムリーな更新を続けていく。 イ 「体験入学」、「学校説明会」について、さらにICTを活用し、「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝えていく。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや人権について学ぶ機会がある。」（令和元年度 89.9%）を維持し、90%に近づける。 (2) ア 生徒向け学校教育自己診断による「PTAや地域、近隣の学校（支援学校や北小）との交流をしている。」（令和元年度 86.9%）を維持し、90%に近づける。 イ 同自己診断による「本校は国際交流活動に力を入れている。」（令和元年度 80.1%）を維持し、85%に近づける。 (3) ア イ 保護者向け学校教育同自己診断による「学校の教育方針や教育情報はわかりやすく伝わっている。」（令和元年度 67.5%）を、70%以上にする。「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある。」（令和元年度 64.1%）を、70%以上にする。</p>	
<p>4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実 ア 一人一人の生徒支援の充実 イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底 (2) 「入学してよかったと言える学校」の継続 ア 「藤高」の将来に向けた特色ある取組みの検討 (3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化 防災教育の充実 ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化 (4) ア 生徒・教職員の健康管理体制の充実 イ 教員の働き方改革</p>	<p>(1) ア 本校の教育目標である「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、「教育相談」体制の充実を図るとともに、各学年と部活動の連携、保護者との連携を深め、生徒支援体制の充実を図る。 イ 生徒の98%が通学手段として、自転車を利用しているため、地域や警察と連携し、交通安全指導の徹底を図る。 (2) ア 生徒数減の将来においても、「入学してよかったと言える学校」を継続していくために、「藤高総合探究推進委員会」、「初任期育成チーム：ひよたま」を中心に、近い将来への特色ある具体的方策を検討していく。 (3) ア 大規模災害に備え、藤井寺市危機管理室と連携しながら、必要物資の調達等をさらに進めていく。 (4) ア 学校保健委員会、安全衛生委員会の内容の充実 イ 放課後の会議を最小限にし、勤務時間を過ぎることのないよう徹底する。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「悩みを相談しやすい体制ができている。」（令和元年度 63.4%）を、65%以上にする。保護者向け学校教育自己診断による「子どもが悩みを相談できる体制ができている。」（令和元年度 65.6%）を、70%以上にする。 イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校での生活について、先生の指導は適切である。」（令和元年度 75.1%）を80%以上にする。 (2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい。」（令和元年度 83.3%）を維持し、85%に近づける。生徒向け学校教育自己診断における「学校は特色ある取組みを行っている。」（令和元年度 76.5%）を80%以上にする。 (3) ア 災害発生後に必要な備品の調達を進める。 (4) ア 学校保健委員会、安全衛生委員会における提案の実現をはかる。 イ 過労や心的負担による病休等が生じない。</p>	